

様 式 Z - 7

科学研究費助成事業 実績報告書（研究実績報告書）（平成30年度）

|           |    |        |      |           |
|-----------|----|--------|------|-----------|
| 所属研究機関名称  |    | 大妻女子大学 | 機関番号 | 3 2 6 0 4 |
| 研究<br>代表者 | 部局 | 家政学部   |      |           |
|           | 職  | 教授     |      |           |
|           | 氏名 | 柴山 真琴  |      |           |

1. 研究種目名 基盤研究(B)(海外学術調査) 2. 課題番号 263010333. 研究課題名 日系国際児のバイリテラシー形成過程の質的探究とその展開4. 補助事業期間 平成26年度～平成30年度

## 5. 研究実績の概要

本研究の目的は、ドイツ居住の独日国際家族を対象に、幼児期・児童期のバイリテラシー形成過程の更なる解明を進めることである。具体的な課題は、以下の通り。【課題1】独日国際家族における多様なバイリテラシー実践に通底する基本原理を抽出すること。【課題2】継承語としての日本語リテラシー形成過程の特徴を解明すること。

上記課題を明らかにするために、最終年度である平成30年度は、(A)と(B)の調査・研究を行った。

(A)【課題1】に関わる調査・研究：[調査1]日誌法による対象児の行動観察調査、[調査2]対象児の通学校(現地校と日本語補習授業校(以下、補習校))等でのフィールド調査、[調査3]対象児の二言語力(ドイツ語力と日本語力)調査の5年次調査を行った。また、5年間にわたって収集してきたデータの分析を行い、その成果を3編の論文としてまとめた(このうち1編は公刊済みで、1編は掲載が確定している)。

(B)【課題2】に関わる調査・研究：前年度の作業を踏まえて、本年度は2つの作業を行った。(1)日本語作文力の指標の完成：1年次(平成26年度)から取り組んできた、児童期の作文力を総合的に評価するための「作文評価法」を完成させた。

(2)国際児の日本語作文データの収集と分析：本年度は、これまで小4時と小6時に作文を書いていた同じ生徒集団(2018年度補習校中学部2年生)を対象に、3回目の日本語作文(物語文課題作文と説明文課題作文)調査を行った。中2の作文データについては、(1)で述べた「作文評価法」を使って、年度末までに小6 中2の変化過程に着目してデータ分析を行い、レポートにまとめた。また、調査協力校の補習校講師および保護者に対して、特に小4 小6における日本語作文力の変化過程に見られる特徴を中心に研究成果を還元した(2018年10月12日にドイツで成果報告会を開催した)。

## 6. キーワード

バイリテラシー 日系国際児 同時バイリンガル 質的研究 継承語としての日本語 日本語作文力

## 7. 現在までの進捗状況

区分  
理由  
平成30年度が最終年度であるため、記入しない。

2 版

## 8. 今後の研究の推進方策

平成30年度が最終年度であるため、記入しない。

## 9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

平成30年度が最終年度であるため、記入しない。

## 10. 研究発表（平成30年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著論文 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>ピアルケ(當山)千咲・柴山真琴・高橋登・池上摩希子                        | 4. 巻<br>第172号         |
| 2. 論文標題<br>「継承日本語学習児における二言語の作文力の発達過程：ドイツの補習校に通う独日国際児の事例から」 | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>日本語教育  | 6. 最初と最後の頁<br>102-117 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                              | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                     | 国際共著<br>-             |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>ピアルケ(當山)千咲・柴山真琴・池上摩希子・高橋登                                       | 4. 巻<br>第19号    |
| 2. 論文標題<br>「複数言語環境に育つ子どもはどのように読書活動を実践してゆくのか：社会的環境とのかかわりと言語をめぐる意識の変化に注目して」 | 5. 発行年<br>2020年 |
| 3. 雑誌名<br>質的心理学研究   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                    | 国際共著<br>-       |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>柴山真琴                      |
| 2. 発表標題<br>「体験から学ぶエスノグラフィー」          |
| 3. 学会等名<br>日本質的心理学会・研究交流委員会研修会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2019年                      |

〔図書〕 計0件

1 1. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4. 備考

大妻女子大学研究助成情報 / 採択課題・実績報告書等  
<http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/jyosei/modules/saitaku/>